

# 明日に向かって2015

## H27年度 福祉事業所・雇用状況等説明会

10月2日(金)に本校体育館で「福祉事業所・雇用状況等説明会」が開催されました。

大仙市健康福祉部生活支援課からは、在学中や卒業後に利用できる障害福祉サービスとその手続きについてQ&A方式で分かりやすい説明がありました。また、仙北市と美郷町の担当者の方に個別の質問や相談に答えていただきました。

ハローワークからは、地域の障害者雇用の現状と就職に向けて在学中から気を付けてほしいことなどについて、就業・生活支援センターからは、支援内容や卒業生の事例について大変参考になる話がありました。後半は、14の福祉事業所から作業内容と工賃、定員や今後の事業展開等について説明があり、参加者の方々は担当者の方と熱心に話し合ったり、質問したりしました。卒業後の進路について考える貴重な機会になりました。



### 参加された方の感想 その1

大仙市健康福祉部の障害福祉サービスの話が参考になりました。「生活介護」などを扱う施設からも直接お話を伺い、進路について考えを深められました。

<高等部保護者より>

### 参加された方の感想 その2

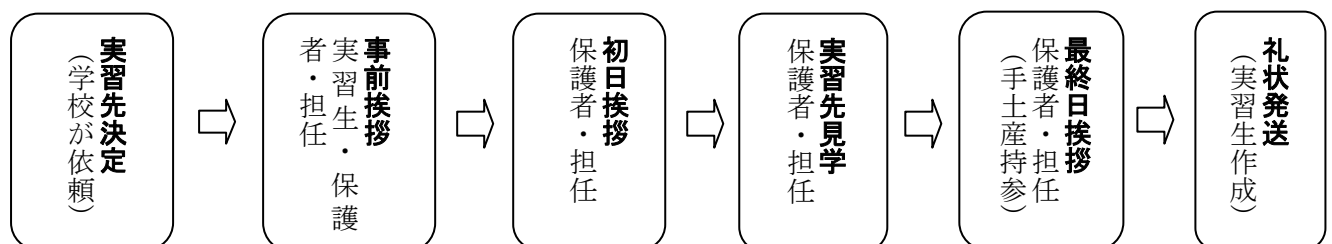
最初はどういうことをするのか分かりませんでしたが、送迎など具体的な内容の相談をすることができ、参加してよかったと思いました。

<高等部保護者より>



## ～中学部作業学習週間、高等部第Ⅱ期実習がはじまります～

中学部作業学習週間が11月16日(月)～20日(金)までの5日間、高等部第Ⅱ期実習が11月16日(月)～27日(金)までの9日間(内1名は14日間)行われます。前期までの作業学習週間や実習の反省を踏まえて、次の目標を立てているところです。今回は高等部地元実習(家から実習先へ)の大まかな流れについてお知らせします。保護者の方の御協力が必要になりますので、よろしくお祈いします。



※随時、ハローワークや就業・生活支援センターと一緒に一般事業所を訪問します。校長、進路担当も各所を回っています。

# 今日までの道のり

H26年度卒業生の幼い頃からの「歩み」をお届けしています。今回は、卒業後「まつくら」で働く二人にスポットを当て、お母さん方にお聞きしました。



佐藤 将貴 さん

## <就学前>

- いつもにこにこしている子でしたが、初めての場所や人、匂いに敏感に反応していました。
- 行事に対しても緊張していることが多かったです。
- 二つ年上のお兄ちゃんがいる、優しくしてくれました。小児療育センターに行くときは、お兄ちゃんも一緒に行っていて、保育園の入園も同時期でした。

## <大曲小学校>

- お兄ちゃんと同じ小学校に行くことを選び、小1から特別支援学級に在籍しました。
- 今でも大好きなグラウンド・ゴルフの体験を初めてしたのはこの頃です。
- 中学年の頃から様々なイタズラを覚え、うちに帰ってきてからやるようになりました。
- 自分から話をすることが少なかったですが、楽しかったことなどどうしても伝えたいことは、自分から話をしてくれました。
- 本人があまり話さないで、学校の様子や出来事は、みんな連絡帳で知りました。

## <大曲養護学校 中学部>

- 特学の先輩が「中学校」には行かなかったため、自然な流れで養護学校を選びましたが、小学校に比べて大人数になることへの不安は多少ありました。しかし、本人が「学校が嫌」という日は一日もありませんでした。

## <大曲養護学校 高等部>

- 振り返れば、たくさんの友達の中で「いい刺激をもらったな」と感じています。下校後、友達の名前を紙に書いたり、家の人に話したりすることがよくありました。
- 特体連では高2の頃から、大好きなグラウンド・ゴルフの選手になりました。
- 3年生になってからは太鼓演奏が大好きで、卒業した今でも、家でたたくまねをしているほどです。
- 高3から「まつくら」で実習をしました。毎日違う仕事を体験し、楽しんで帰ってきました。

## <まつくら>

- 毎朝7時前には起きて朝食を食べ、8時半には家を出て送迎車がくるまで10分ほど歩いています。帰宅は16時前です。
- 通所から始めの3か月は、月に1度のペースで面談の日があり、様子を見ることができました。普段は仕事の様子を見ることはありません。
- 外での作業だった日は「疲れた」といって帰宅することが多いですが、楽しんで通っています。
- 今でも歯磨きは苦手で、やっていなくても「した」と言うことがあります。小さい頃、もっとしっかり身に付けさせればよかった、と感じています。



高見 僚介 さん

## <就学前>

- 初めて歩いたのが1歳8か月の時でした。
- 1歳半健診で発達の遅れを指摘され、2歳頃に小児療育センターを受診しました。
- 保育園や小児療育センターに通いながら、「地域療育訓練」にも参加していました。

## <小学校>

- 6年間、特別支援学級で過ごしました。入学後、学校に慣れるまでは教室まで送っていました。「自分の物を片付けてから遊ぶ」などのルールを理解するのに時間が掛かりました。

## <大曲養護学校 中学部>

- 中学校の特別支援学級も考えましたが、6年間掛けて養護学校で成長させたいと思い、養護学校を選びました。大人数で驚きました。
- 排せつの自立ができたことがうれしい出来事でした。
- 農園芸班や紙工班で働く学習をしました。体を動かして働くのが好きでした。
- エスカレーター式に高等部に入れると思って入学したので、3年生になって様々な進学先の選択肢を伝えられたとき衝撃を覚えました。

## <大曲養護学校 高等部>

- 高等部に入るとさらに大人数になりましたが、特に不安はありませんでした。
- 1年生の頃は一般就労だけを考えていましたが、担任の先生から「福祉サービスの利用も視野に入れませんか」との助言があり、両面から考えるようにしました。
- 実習は、1年生のⅡ期で農業科学館、2年生のⅠ期で校内、Ⅱ期でほっぺ、3年生のⅠ期でサンワーク大曲を経験しました。友達と路線バスで通うこと、体を動かして働くこと、一つの仕事を集中して行うことなど様々なことを学びました。特に、「ほっぺ」に行ったときは初めての自力通勤（徒歩）だったので、何度も振り返りながら一人で歩いて行く姿を、見えなくなるまで見送りました。実習後のPTAでは、お母さん同士で実習の様子を涙ながらに語り合いました。

## <まつくら>

- 高等部3年生のⅡ期実習で「まつくら」を経験し、屋外作業も多いことや施設の雰囲気は本人に合っていると感じました。また、本人も「『まつくら』で働きたい」という意思をはっきり伝えてくれたので、利用を決めました。親としては、自力通勤が可能な場所がいいかなとも思いましたが、本人の意思を一番に考えました。
- 働いた分を積み立て、夏には山形に1泊旅行に連れて行ってもらいました。
- これからも、ずっと健康で好きな仕事を続けてほしいと願っています。